

「キャリアフェスティバルいといがわ」

～産学官連携の具体的ななかたち～

はじめに

当市は、新潟県の最西端に位置し、南は長野県、西は富山県に接しています。50キロもの海岸線に面し、本州を東西に二分するフォッサマグナ（大地溝帯）の西縁となる「糸魚川 - 静岡構造線」の北端に位置しています。

また、国石であるヒスイの質・量ともに国内随一の産出地であるとともに、世界最古のヒスイ文化発祥地でもあります。平成21年には、その多様な地域資源や固有の文化などが評価され「ユネスコ世界ジオパーク」に認定されたことは他の自治体にはない当市の魅力です。

一方で、地方都市ならではの急激に進む人口減少問題を抱え、人口構成も高齢化が進むだけでなく、少子化の進行により社会保障を支える人口構成バランスが崩れつつあることが大きな課題となっています。

1. 子ども一貫教育基本計画の策定

(1) 計画策定の経緯と趣旨

社会や経済の急激な変化、少子高齢化社会や高度情報化社会の一層の進行等により、子どもを取り巻く教育環境の悪化が懸念されています。糸魚川市では、未来を担う人づくりが市発展の原動力であるとの考えに立ち、市民総ぐるみで子どもを育む活動を提唱し、明日を担う人づくりを掲げて教育施策の充実に努めてきました。子どもの育ちや学びは常に連続し一体的なものであり、発達段階にふさわしい連続性を重視した教育を行うことが必要です。そうしたことから、平成21年度に「子ども一貫教育方針」を策定し、翌22年度には「子ども一貫教育基本計画」とする、子どもの「自立」のために家庭・地域・園や学校などが互いの役割を共通認識し、連携しながら子どもの発達段階に応じて実践活動に取り組むための具体的な計画を定めました。

(2) 基本計画で目指す方向性

子ども一貫教育基本計画では、子ども一貫教育方針で掲げる「豊かな心の育成（徳育）」「健やかな体の育成（体育）」「確かな学力の育成（知育）」の3つの柱と、それを支える重要な教育活動として「キャリア教育」「ジオパーク学習」「特別支援教育」を位置付けています。

	項目	目指す方向（育てたい力）
3つの柱	豊かな心	自己肯定感があり豊かな心と社会性をもつ子の育成
	健やかな体	生活スケジュールの自己管理能力の育成
	確かな学力	主体的に学び続ける力の育成
重要な教育活動	キャリア教育	自分に自信をもち、糸魚川への愛情・愛着が高まる子の育成
	ジオパーク学習	体験、学習活動を通したふるさと糸魚川への愛着の形成
	特別支援教育	自立を目指した、とぎれない支援の推進

本計画で目指すのは、18歳での自立です。

糸魚川市で生まれ育ち、学び、成長を続ける子どもたちが、家庭・地域・園や学校との連携のもと、心と健康と学力のバランスがとれ、夢を持った子どもに育つことを目指し、0歳から18歳まで適時適切な教育と切れ目のない支援を行うこととしています。

2. キャリア教育がもたらすもの

(1) 地域との関りの大切さ

キャリア教育とは、自分らしい生き方を実現するための力を育むことであり、世の中で自立し、自分の役割を果たしながらしっかりと生きていくために欠くことのできない力です。加えて、当市では、郷土への愛着と郷土に貢献する態度をキャリア教育の軸に据えています。

郷土に愛着と誇りを持つ人材の育成は、幼児期から高校卒業まで（一度地域を離れるまで）一貫して行うことが重要ですが、少子化が著しい当市の場合、生徒数減少の影響から地域活力が衰退し、若者世代の流出が加速していくことが懸念されています。

平成28年度調査「地方における雇用創出－人材還流の可能性を探る－」（独立行政法人労働政策研究・研修機構）によれば、Uターンは地元への愛着や地元企業への認知によって形作られ、とりわけ愛着に影響する部分が多いことが報告されています。地元企業をよく知らないことを背景に人材流出が引き起こされているのであれば、高校生年代までに地域の働く場を知ることで、転出後も出身地への愛着として心に残り、Uターン希望を喚起する可能性につながるというものです。

進学や就職等で高校卒業時の転出率が8割を超えますが、キャリア教育を通じて地域に深く触れた経験が地域について考え行動する人材を育て、Uターンの促進や地元定着といった将来の人材サイクルの構築に非常に重要になってきます。

(2) 先進地域への視察

令和元年、特徴あるキャリア教育を行っていると感じた長野県伊那市を訪問し、「伊那市中学生キャリアフェス」を見学させていただきました。地域への愛着を高め、将来の地域人材を育てるという明確な目標のもと、学校・企業・地域が協働し、キャリア教育を通じた地域活性化の取組のまさにモデルケースといえるものでした。先進的な事例を目の当たりにしたことをきっかけに、同様の取組が当市でも行えないか検討を始めました。

3. 中学生キャリアフェスティバル

(1) キャリア教育イベントの開催

令和2年、当市のキャリア教育における新たな取組として「キャリアフェスティバルいといがわ」を立ち上げました。自分らしい生き方を実現するための「かかわる力」「夢をおこす力」を育てるために、生徒が地域の大人と対話し、自分の未来、地域の未来を考える機会を創り、加えて、多くの職種や職業観に触れることで、地元企業の素晴らしさを知り、地域への愛着を高めてもらうことが目的です。

当市に生まれた子どもが、幼児期からの自然体験を経て、小学校低学年での地域学習、高学年の職場見学、中学校2年生の職場体験と積み重ねてきたキャリア発達を一層促す集大成として、中学校3年生を対象にしました。



実施にあたっては、産学官で組織した実行委員会が主体となり、出展企業は教育的意義を理解したうえで、また学校側は共通の内容で事前学習を行い、参加者全員が高い目的意識をもって当日に臨みます。

概要は次のとおりです。

- ・ 会場内に企業・団体がPRブースを構える
- ・ 生徒が自由に企業・団体のブースを訪問し、地域の大人と対話する
- ・ 企業は、仕事の紹介を通じて、仕事のやりがいや生き方、地域に対する想いを伝える
- ・ 生徒は、その想いを聴くとともに、積極的に質問を投げかける

※ルール：就職のための企業説明会となってはならない

(2) 生き方に出会える場所を届ける

市内のすべての中学3年生が一堂に会する機会はありません。まして、親でも学校の先生でもない大人との対話もほとんど経験がないことです。はじめこそ緊張で硬かったものの、ブース巡りを重ねるにつれ本来の中学生が持つパワーが解放されていき、自分の興味・関心に耳を傾け、貪欲に何かを持ち帰ろうとする姿勢が見られるようになりました。



真剣に大人の話聞く生徒の目はキラキラと輝き、その眼差しに本気で応える大人たち。熱い想いのぶつかり合いは、会場に熱気とともに大きな一体感を生み出しました。会社や仕事を知ってもらうこともねらいの1つですが、大事にしたのは、一人ひとりの大人の糸魚川での暮らしや地域に対する想い、生き方を感じてもらうことです。大人との対話の中でたくさんの驚きや学びがあり、自分は将来どうありたいかを真剣に考える時間になったことと思います。出展企業の満足度も高く、好意的な評価とともに、今では9割以上の企業から連続して出展をいただいています。

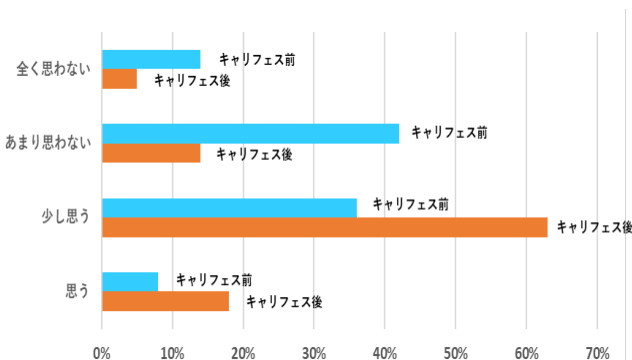
企業にとっても、子どもの真剣な想いや生の声を聞くことができる絶好の機会として、まさに産学官が連携した好事例となりました。

4. 成果と課題

(1) 生徒の意識の変化

キャリアフェスティバルの前後で生徒の意識の変化を分析しています。市内で知っている企業数について、開催前は6～10件という回答が多かったものが、開催後は11～20件と大きく増えました。また、市内の企業で働いてみたいかという設問では、開催前では「あまり思わない」「全く思わない」という回答が半数以上でしたが、開催後は「少し思う」「思う」の回答が8割を超えました。

糸魚川市の会社・事業所などで将来働いてみたいと思いますか。



さらに、自由記述意見では、「考え方や生き方の面で大きく成長するひとつのきっかけになった。」「真剣に頑張る大人を初めて見た気がする。本当にかっこよかった。」「将来、糸魚川で働きたいという思いが強くなった。」などの好意的な声が多数あり、大人の想いが子どもたちに届いていることを実感しました。



一方で、職種の片寄りやこれからの時代の新しい働き方の提案が少なかったといった課題も見つかり、開催後に産学官から募る評価アンケートをもとに改善を図っていくこととしています。

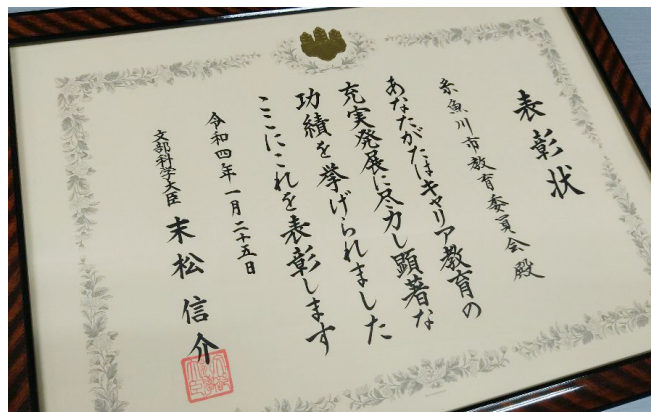
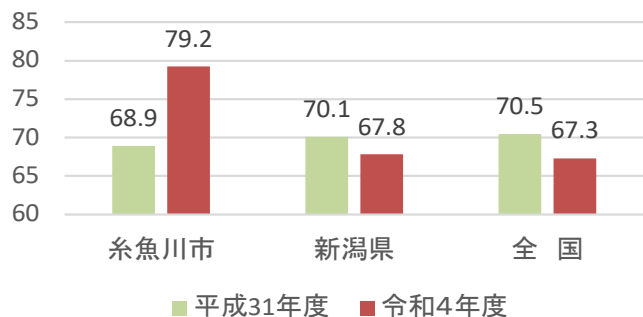
(2) キャリアプランニング能力の育成

次ページのグラフは、平成31年度の全国学力・学習状況調査時と令和4年度の調査結果を比較したものです。平成31年度当時、当市の中学3年生は全国割合と比べて夢や目標をもっている子どもが少なかったものの、令和2年度にキャリアフェスティバルを始めた以降では全国割合を大きく上回るようになりました。キャリアフェスティバルは、郷土愛のほか、自己理解やキャリアプランニング能力を育む機会にもなっています。

「令和4年度全国学力・学習状況調査」結果（国立教育政策研究所）

「将来の夢や目標を持っている」（％）

中学3年生



「キャリアフェスティバルいといがわ」を含めたキャリア教育の取組が評価され、令和3年度キャリア教育優良教育委員会文部科学大臣表彰を受賞しました。

おわりに

今年で3回目をかぞえ、出展企業はもとより、中学校や多くの教育関係者から糸魚川市のキャリア教育に対する本気が伝わる素晴らしい取組との評価をいただくようになりました。年々、参加企業が増えていることから、我々だけではなく、市民全体が地域の将来に危機感を抱き、想いを共有している現れだと捉えています。

産業界、学校、行政の3者が一緒に汗をかき、言葉だけではない、産学官連携というものが具体的な形となった試みであり、回を重ねるにつれ、着実に連帯が深まっていることを感じています。それとともに、産学官が共通理解のもと、こういった場を作り上げられていることに感謝しています。

キャリアフェスティバルは、当市の最重点課題である人口減少対策に対する教育委員会としてのひとつの実践であり、この子どもたちがどのような将来を選択するか、数年後の成果の発現に注目しています。

今年もこれまで以上の盛り上がりで無事終了したキャリアフェスティバルいといがわ。産学官それぞれの想いを組み入れながら、毎年少しずつ形を変えてきています。教室だけでは得難いリアルな感動体験をこれからも大切に、想いが受け継がれ、いつかこの生徒たちが仕事への誇りや生きがいを熱く語っている未来が来ることを楽しみにしています。